

(別紙様式2)

## 平成23年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名〔京丹後市立峰山幼稚園〕

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
主体的に活動し、健康な心と体で生きる力をもった幼児の育成を目指す。		○言語力向上の取組で、挨拶や返事、聞く態度が向上した。 ○戸外活動や運動遊びの充実により、戸外での活動を好み、友達と主体的に遊ぶ姿が定着してきた。 ○PTAと連携した行事や奉仕活動、学習の機会の設定は保護者同士の交流や情報交換、子ども理解につながった。 ○毎月の園開放が定着し参加者と園児の交流ができた。 △事例研究や研修を充実させる。	・保護者・地域社会との連携に努め、信頼され開かれた幼稚園づくりに努める。 ・自己の発揮と他者とのかかわりを通し、協同性を育成する。 ・言語力向上の取組を推進する ・自然体験活動の取組を推進する
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	○自己の発揮と他者とのかかわりを通し、協同性の育成推進  ・自己肯定感を育て主体的に活動する力をつける。 ・人間関係を深め、友達と協同して遊びや活動をし、学び合いができる力をつける。 ・他者とかかわる際に味わう感情体験を大切にし、育ちにつなげる。 ・コミュニケーション力や規範意識など、様々な力を総合的に育む。	(1) 多様な他者との出会いや体験の機会を設定する。 ・施設の見学や訪問 クリーンセンター・エコエネルギーセンター・高齢者施設 ・行事や取組に関わった交流 よさこいチーム・中学校ブラスバンドクラブ・嬉しいがいっぱいフェスティバル・幼稚園舎お別れ行事・幼稚園交流会・高校生種まき指導・年長児交流会 ・体験活動 ハーブ園・みかん狩り・宿泊体験・米作り・いもほり・陶芸 (2) 幼児が主体者となる遊びや生活の充実に向け、環境設定を工夫する。 ・戸外遊び・遊戯室自由遊び・廃材製作コーナー・朝の会活動・当番活動 (3) 集団生活ならではの経験や友達と取り組む醍醐味が味わえる活動を行う。 ・飛天出演・案山子作り・宿泊保育・運動会・嬉しいがいっぱいフェスティバル・収穫祭・劇遊び・紙芝居作り (4) 異年齢交流保育を推進する。 ・ランチルーム給食・身体測定・運動会縦割りチーム・誕生会	○多様な体験活動で、多くの人との出会いを喜び親しみを感じたことにより、人とかかわる力や自己発揮につながる基礎の力となった。 ○主体的な遊びが発展し、友達と目的を共有して遊ぶ姿が多く見られた。その中で葛藤やつまずきも経験し、自分たちで解決しようとする態度や規範意識が芽生えてきた。 ○運動会や発表会等において、縦割りチームや園全体で目標に向かうことで、友達を認めあったり、年長児の自覚も高まったりし、達成感を共有し、困難な事にもチャレンジする自信につながった。 ○個々の子どもの成長や頑張りや保護者や本人に具体的に伝えたことは、子どもの自信や保護者との信頼関係につながった。 △たよりや写真等を更に活用し、活動の様子をその都度保護者に具体的に伝える工夫を行う。

	<p>○言語力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりと挨拶や返事ができる力をつける。</li> <li>・人の話をしっかりと聞くとともに、自分の思いを言葉で表現する力を身につける。</li> <li>・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうとともに、語彙力を豊かにする。</li> </ul> <p>○自然体験活動の充実推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な自然体験を通し、豊かな感性と知的好奇心、運動能力や体力の向上を目指す。</li> <li>・戸外で身体を使った遊びを奨励し、早寝早起きの望ましい生活習慣確立につなげる。</li> <li>・戸外で主体的に遊ぶ力を育て遊びを学びにつなげる。</li> </ul>	<p>(1) 挨拶の奨励や話を聞く態度等について徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月合言葉を作成し家庭と連携 ・教室に掲示し園全体で徹底</li> </ul> <p>(2) 自分の思いを言葉で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感動体験の機会設定 ・話し合いや発表の機会設定</li> <li>・短歌作りや紙芝居作りなど多様な言語遊び活動</li> </ul> <p>(3) 絵本や物語に親しむ機会を多く設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵本大好き大作戦」を家庭と連携し実施</li> <li>・一日一冊絵本読み聞かせの実施 ・「ノーテレビデー」の取組</li> <li>・PTAと連携し「絵本の回覧板」活動と絵本読み聞かせ等の活動</li> </ul> <p>(1) 米や野菜、花の栽培を行い食育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種からの野菜や花作り ・親子での栽培や収穫体験</li> <li>・クッキング活動</li> </ul> <p>(2) 自然の中での体験や遊びの機会を多く設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外活動（森の幼稚園）</li> <li>・園庭、山の運動場、アスレチックでの遊び</li> <li>・はだしや泥んこ保育 ・草花遊び</li> </ul> <p>(3) 合鴨や孔雀の飼育活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番活動 ・日常的なふれあい</li> </ul>	<p>○朝の挨拶が定着し、相手の名前を呼んで挨拶する姿も見られるようになった。</p> <p>○言葉による表現力や発表力が向上し、自分なりの言葉で発言できる姿が増えてきた。</p> <p>○絵本の読み聞かせの取組を強化したことにより、子どもの本好きが進み、日常会話でも語彙が増え、豊かな表現が増えてきた。</p> <p>○作った短歌や紙芝居が保護者に認められて自信となり、豊かな表現の工夫に繋がった。</p> <p>○野菜や大根等を個々で管理した事で、愛着や関心が強くなり、育てる喜びに繋がった。</p> <p>○自然体験の充実で豊かな感性が育ち、絵や短歌などの表現に繋がった。知的好奇心も向上し、図鑑等で調べる姿が出てきた。</p> <p>○園庭の環境を十分活用した事や園外活動により、戸外活動を好み主体的に遊ぶ姿が見られ、自然に対する興味関心も強くなった。</p> <p>△園庭遊びの環境構成を工夫する。</p>
子育て支援	<p>○家庭、地域との連携と子育て支援</p> <p>○家庭の教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者地域から愛され信頼される幼稚園を目指す。</li> <li>・保護者同士をつなぐ場を提供し、子ども理解や子育ての仲間づくりを支援する。</li> </ul>	<p>(1) 地域の子育て基地として、地域から愛される幼稚園を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園開放」を月1回実施・園舎お別れ行事を地域に参加呼びかけ・市役所に絵の展示・飛天と秋祭りへ出演・嬉しいがいっぱいフェスティバルを新聞折り込みで周知・京都国文祭短歌大会への応募・作品展示</li> </ul> <p>(2) 家庭の教育力向上に向け支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の交流の機会の設定（毎週金曜は園まで迎え）</li> <li>・「園長とお喋り会」を毎月1回実施</li> <li>・園だよりやスライドによる活動の報告</li> <li>・研修機会の提供 ・親子体験活動の機会の提供</li> </ul>	<p>○毎週金曜日に5歳児保護者も園まで迎えに来る日を設けたことで、教師と話す機会が増え幼稚園の教育理解にも繋がった。</p> <p>○幼稚園開放は毎回参加者が多く、地域の園に対する理解が深まるとともに、園児にとっても未就園児と交流する機会になった。</p> <p>○PTAと連携した行事や体験活動奉仕作業により、保護者同士の交流が深まった。</p> <p>△働く保護者も参加し易い参観や交流の場の工夫をしたい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校内の仮設園舎へ移転する事から、様々な活動で制約が発生すると予想されるが、小学校と連携し試行錯誤しながら子どもたちに安全で望ましい教育環境を提供し、今年度の取組を更に推進したい。</li> <li>・言葉力向上に向けて挨拶や返事を定着させるとともに、紙芝居作りや短歌作りなど、言葉遊びを豊かに体験させる取組を更に向上させたい。</li> <li>・保育公開や事例研究、研修の機会を増やし、教師の資質向上に努めたい。</li> </ul>		

(別紙様式2)

# 平成23年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立網野幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
(1) 幼児自らが環境に関わり、感動する体験を大切にし、豊かな感性を養う。 (2) 自分の思いや考えを表現したり、行動できる力を養う。 (3) 幼児を取り巻く生活環境や健康について実態を把握し、基本的な生活習慣や態度を養う。 (4) 常に園内外の安全指導・安全対策に留意する。 (5) 地域の自然や文化に触れ、生活体験や社会体験を豊かにする。	○本年の教育活動を小冊子【網野幼稚園の教育】として配布し、細かな部分でも保護者の理解を図った。 ○3学期になって『言葉のやり取り』の面白さに気付く子どもが多くなり、伝わることを実感できるようになってきた。 ○体を使った遊びを継続することで、身体を動かすことが好きになった幼児が多くなり、入園当時のひ弱さがなくなった。 ○協同で活動することで、自分の思いも伝えながら友だちの思いに気付いたり、ルールを学んだりすることができた。 △返事がしっかりできない子どもや自信が持てない子どもも中には居る。	(1) 信頼を基盤に、活力ある園作りをする。 (2) 幼稚園教育要領及び本府学校教育の重点を踏まえ、心情豊かにたくましく生きる人間形成の基礎を培う幼稚園教育を推進する。中でも、～さまざまな人と関わり、ふれあい、つながり合うために～をテーマとして以下の点に取り組む。 ① ことば力の育成—聞く・話す・伝え合う・相手の思いに気付く— ② 元気な体・たくましい心—食育から— (3) 教師の専門性の向上を図るとともに研修を行う。 (4) 家庭との効果的な連携に努める。

評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	(1) 信頼を基盤に、活力ある園作りをする。  (2) 幼稚園教育要領及び本府学校教育の重点を踏まえ、心情豊かにたくましく生きる人間形成の基礎を培う幼稚園教育を推進する。中でも、さまざまな人と関わり、ふれあい、つながり合うために、 ① 言葉の力の育成—聞く・話す・伝え合う・相手の思いに気付く。 ② 元気な体・たくましい心—食育から—を重点目標とする。	○教育活動のパンフレットを作り、保護者に配布する。 ○子どもの活動の「園だより」の号外を発行する、玄関に活動の様子を貼り出す、1学期の姿を映像で知らせるなど、見て分かる広報にする。  ○言葉の力をつけることが、園での生活をスムーズに進めていくことの基礎であることに気付かせ、様々な活動の中で、言葉で表現することを取り入れる。 ○グループ活動を行い、自分の意見を言ったり、時には喧嘩もしながら、相手にも思いがあり、自分の思いばかりが通らないことを理解して、一緒に活動する経験を積み重ねる。 ○朝マラソンやリズム運動、キッズサッカー、リズム体操、ドッジボール等を発展させ、子どもたちが楽しんで身体を動かし、時には自分たちでルールを作ったり、繰り返し挑戦する中でやりきろうと努力するような「竹馬」や「縄跳び」等の環境を設定する。 ○食育の年間計画を作り、無理せず、一口から、食べたいと思えるようなお腹のすく活動を組み入れ、野菜の栽培や、それを使ってのクッキング等を行う。	○来園時には、写真をくいいるように見たり、写真入りのたよりへは好印象の反応があるなど、園への理解や信頼が深まった。  ○多くの子どもが自分の思いを言葉で表現できるようになった。特に、想像やイメージによるお話作りや、活動に対する感想等を話す力がついてきた。 △相手の思いになって発言することができない子どもや、緊張感が強くて大きな声で発表することが苦手な子どもがまだいる。 ○運動遊びをする中で、新たな自分の力に気付き、自信や自己肯定感を感じる子どもが多かった。それが「頑張って食べよう」という気持ちへもつながっていった。 ○自らが栽培した野菜は、嫌いなものでも食べることができた。植物の生長にも興味を持つことができた。 ○マナーの定着が難しくなっている。

	<p>(3) 教師の専門性の向上を図るとともに研修を行う。</p>	<p>○週の保育の内容・配慮・その活動の意図するものを、職員全員で理解するために、週の予定を年間発行し、共通理解の材料とする。 ○リズム運動・リズム体操など、それぞれの得意分野を取り込み合い、互いに学び合う機会を多くもつ。</p>	<p>○網野幼稚園の教育のねらいとするとところを理解し合うことができた。 △自らのアイデアや進んで新しい教育内容や教材を取り入れ、生かそうとすることができなかった。</p>
	<p>(4) 家庭との効果的な連携に努める。</p>	<p>○『ママのおしゃべり会』の内容に案を提供したり、職員の協力や学校ボランティアの協力も得る。(浴衣の着付け、お茶の稽古など) ○月の予定を半月前にカレンダー形式で知らせる、連絡と伝えたい教育の話とは分ける、など便りの工夫をする。 ○細かい事でも幼児の様子を家庭にしっかり連絡するようにする。</p>	<p>○細かく伝えることで理解してもらうことが増えた。 △反して、細かく知らせると字数が多くなり、しっかり読んで貰えていないと感じることもあった。 △文字でなくても伝える方法を考え、子どもたちの思いを代弁できるような保護者との関わりが必要であり、工夫をしていきたい。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>・園開放により、就園前の親子での保育参加を行い、子育ての安定を図る。</p>	<p>○月1回の『なかよしスクール』を開催する。 定期的に園開放をする、子どもたちの状況を捉え園に慣れて楽しく遊べるようにする、時には在園児の歌などの発表を見てもらうなど、参加したいと思えるような内容とする。</p>	<p>○毎回、楽しんで登園する子が多くなってきた。繰り返す中で、親子あるいは他の子どもと時には触れ合いながら遊べるようになってきた。 △人手が足りないため、回数を増やせず、内容を企画したり保護者へ助言・啓発したりすることが不十分になった。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>○職員の学習をさらに進め、自らの考えや発想を取り入れながら教育を積み上げる。子どもの状況把握や環境構成に当たっては、先を読み、教育が推進できるような職員体制に努める。 ○3歳児保育や預かり保育など、新たな事業を始めるにあたり、しっかりと計画を立て実践をし、反省をしながら進める。市内の他園とも連携し合っ て意義あるものにする。 ○新しい事業が始まり、ますます煩雑になる中ではあるが、地域の方たちとの触れ合いを通じた交流には、今後も取り組む。地域の人材に協力を願っ て、就園前の子どもと保護者がより集える子育て支援に取り組む。 ○保育所(横)や小学校(たて)との連携を進める。</p>		

(別紙様式2)

# 平成23年度 学校評価自己評価報告(幼稚園)

幼稚園名 [京丹後市立丹後幼稚園]

幼稚園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度幼稚園経営の重点(短期経営目標)
生き生きと遊び心豊かでたくましい子の育成 ・全職員が保護者や地域の人と協力し合って心豊かでたくましく優しさがあふれ意欲的に遊びを作りだす子を育成する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 異年齢児との交流は機会を重ねるごとに豊かなかかわりが持て深まってきたので、引き続きつなげ育てていく。</li> <li>2 こども園の運営と幼児教育の理解を更に進め、保護者や地域へ通信を配信する。</li> <li>3 保幼小連携について、職員合同研修の機会を持つなど深めていく必要がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 異年齢交流を通して、人と人とのつながり、いたりや優しさ思いやりの心を育む心豊かな経験を行う。</li> <li>2 聞く力や話す力を意識して計画的に進める中で、自分の思いが言葉で表現できるよう、言葉力の向上を図る。</li> <li>3 幼保一体化施設の活用、長所の探求</li> </ol>
評価項目	重点項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 異年齢の交流を通して、心豊かな子を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年少者に対するやさしさや責任感を育てる。</li> <li>・年少者は、優しく支えてもらうことにより、憧れ・学び、育ちあう。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中での交流 発育測定や午睡時の衣服の着脱の手助け等</li> <li>・合同散歩や遊びの交流 時期や活動にあわせて計画する。</li> <li>・行事を通して異年齢交流(運動会・遠足・発表会等) 縦割りチームの取組(ペアの友達を決める)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育計画に沿って取り組み、年長児になった喜びを持ち、年少者に対し慣れない中でも回を重ねることにかかわり方が上手になり優しく接することが出来るようになってきた。兄弟のない子もいたりし、良い経験となった。</li> <li>○年長児もリーダーとして進めたり、みんなで相談する姿が見られるようになってきた。年少者も年長児のすることに興味を持ち挑戦しようとするようになり、共に育ち合う姿が見られた。</li> </ul>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2 言葉力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く力や話す力を意識して計画的に進める中で、自分の思いが言葉で表現できるようにする。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で友達の話聞くなど、みんなの前で話をする機会を意図的に作り、言葉力を育てる。</li> <li>・読み聞かせボランティアや、保護者による絵本の読み聞かせを計画的に行う。</li> <li>・園所有の絵本を家庭に貸し出し、家庭でも絵本に触れる機会を持つようにする。(親子の触れ合いも含めて)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の保育の中、人の話を聞く、目と目を合わせて話をする等に気をつけ進めてきた。心も安定し、落ち着いて話を聞くことができるようになってきた。</li> <li>△まだ、自信のない子もおり、声が小さくなったり、思うことが言葉になりにくい子もいる。</li> <li>○日々の読み聞かせや多くの方による絵本の読み聞かせを通して、様々な絵本に親しめた。親子で図書館に行くなど、家庭読書が広がった。</li> </ul>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3 家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との信頼関係を築き相互関係を図る。</li> <li>・生活習慣の確立を図る。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容 「ママとおしゃべり会」の活動 毎月1回読み聞かせを計画的に入れる。 園全体で、子育て講演会、クラス懇談会等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△幼稚園児の人数が少なく、活動に広がりがあった。</li> <li>○保護者による読み聞かせを毎月計画したことにより、親子での絵本の読み聞かせが家</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立 生活点検の取組(園全体で) 生活の様子を保護者に伝え、家庭と共に考え育てていく。(たより・懇談会等)</li> </ul>	<p>庭でも定着してきた。</p> <p>○生活点検をすることにより、生活の見直しが出来たり、一つの目標に向けて、親子で頑張る姿が見られた。手伝い等により家庭での子どもの役割も明確になり、することにより褒められ自信をつけながらやる気を持たせていく等、良い循環になっていった。</p>
	<p>4 地域・学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人と触れ合い関心を持ち、故郷のすばらしさに気づき愛着を深める。</li> <li>・ 人とのさまざまな体験を通して、生活を豊かにする。</li> <li>・ 園の様子を地域に知らせ、園に関心を持ち、支援をしていただく。</li> <li>・ 小学校との連携を密にし、スムーズにつながりにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との交流 散歩を通しての地域の方との触れ合い いちがお園との交流(年2回) 地域の方にお世話になり、稲・野菜栽培活動と合鴨放鳥の手伝い 各地域に園だよりを配布し、園の活動を知らせる。</li> <li>・ 学校との交流 中学校職場体験(間人中・宇川中) 中学校吹奏楽部演奏(来園) と中学校運動会見学</li> <li>・ 「もうすぐ一年生」体験入学推進事業 マラソン大会応援・小学校学習発表会参観 丹後こども園発表会に招待・小学校お楽しみ会招待 体験入学・授業体験・学校給食試食</li> <li>・ 保幼小の担任が集まり、子ども達の実態を把握し、共通理解する。</li> </ul>	<p>○各地域の方に園だよりを配布し、園への関心を持ってもらったり、ボランティア活動にも快く協力してもらうことが出来た。</p> <p>○高齢者との触れ合いや人との触れ合いが苦手な子もいたが、高齢者に喜んでもらうことにより、園児もうれしくなり、やさしくかかわろうとするようになってきた。</p> <p>○小学校に興味を持って見たり聞いたりするようになり、そこでの体験を生かし、園生活の中で自分のものにして活用したりし、とても良い刺激となった。</p> <p>○保幼小の担任同士で、子どもの実態交流をし、保幼小それぞれのつながりも共通理解でき、よかった。</p>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者同士や未就園児保護者のコミュニケーションの場所を作り、子育ての安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ママのおしゃべり会」を行い、子育てについて日頃の悩み等を出し合える場をつくる。</li> <li>・ 子育て支援センターや、園開放で未就園児との交流を行う。</li> <li>・ 園開放(第1・3金曜日)、園庭開放(第2・4金曜日)を行う。</li> </ul>	<p>△ゆったりと時間を設けて「ママのおしゃべり会」を持つことが出来なかった。</p> <p>○支援センター利用者と園児との交流を計画的に行うことで、未就児に集団の中での遊びの楽しさを知らせ、園児も未就児に対しやさしくかかわる場が持てた。</p> <p>△園開放に来る子はほとんどなく(支援センター利用者が多い)、園庭開放の利用者も少ないため、園だより等で知らせる必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 異年齢との交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流する機会をたくさん持ち、生活・遊びの中でいたり・やさしさ等の気持ちを持ったり、時には憧れの手本となったり、みんなで力を合わせて一つのことに取り組めたり楽しんだりできるような関係をつくる。</li> </ul> </li> <li>2 言葉力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分から進んで挨拶、自分の思いを言葉で伝える、自分で考えて行動する等、自分の思いや考えを言葉で表現したり行動できる力を養う。</li> </ul> </li> <li>3 家庭との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ママのおしゃべり会」は、幼稚園児が少ないため、幼稚園だけに限らず、こども園としての活動も考えていきたい。</li> </ul> </li> <li>4 地域・学校との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 丹後こども園の幼児教育活動を理解してもらい、他機関との連携を引き続き進め、深めていくようにする。</li> <li>・ 小中学校教職員と合同研修の場を持ち、子どもの様子等を話し合い、保幼小連携がスムーズに出来るようにする。</li> </ul> </li> <li>5 幼保一体化施設の活用、長所の探求</li> </ol>		